

キャリア教育に関するアンケート調査結果

『初等・中等教育(小・中・高校)における 「キャリア教育」と産業界の関わりについて』

調査時期:平成18年11月

対象:4,883件(議員企業および150~1,000名の従業員数の企業を抽出)

回答企業数:360件

◆設問(1)

「キャリア教育」についてどう考えますか。

	件数	
推進していくべき	241	(66.9%)
どちらとも言えない	78	(21.7%)
推進すべきではない	25	(6.9%)
その他	15	(4.2%)
無回答	1	(0.3%)
合計	360	(100.0%)

◆設問(2)

設問(1)において「3. 推進すべきではない」とお答えいただいた方にお尋ねします。
その理由をお聞かせ下さい。

	件数	
「キャリア教育」より”読み、書き、計算”などの「基礎教科」を重視すべき	27	(100.0%)
教育的な効果がみとめにくい	4	(14.8%)
金銭第一主義(拝金主義)の人物が育つことが懸念される	3	(11.1%)
その他	6	(22.2%)
無回答	0	(0.0%)
のべ合計	40	—

◆設問(3)

「キャリア教育」の一環としての金銭教育(擬似商売体験など)についてどう考えますか。

	件数	
適度に行うべき	226	(62.8%)
どちらとも言えない	69	(19.2%)
あまり行うべきではない	54	(15.0%)
その他	9	(2.5%)
無回答	2	(0.6%)
合計	360	(100.0%)

◆設問(4)

「キャリア教育」が重視されるようになった背景をどう考えますか。(複数回答)

	件数	
ニート、フリーターの増加	161	(44.7%)
社会人として資質に欠ける若者の増加	259	(71.9%)
家庭、地域など「教育の場」の減少	191	(53.1%)
特に意識していない	7	(1.9%)
その他	32	(8.9%)
無回答	3	(0.8%)
のべ合計	653	—

◆設問(5)

「キャリア教育」の効果ならびに企業メリットについてどう考えますか。(複数回答)

<児童・生徒への教育効果>

	件数	
社会貢献	241	(66.9%)
社内の人材活性化	74	(20.6%)
自社を知ってもらう(知名度の向上)	109	(30.3%)
家庭、地域、学校との関係構築	132	(36.7%)
将来に向けての人材雇用対策	104	(28.9%)
その他	20	(5.6%)
無回答	8	(2.2%)
のべ合計	688	—

<企業にとってのメリット>

	件数	
基本的な社会常識・社会模範やマナーの習得	275	(76.4%)
勤労観、職業観の育成	258	(71.7%)
コミュニケーション能力、協調性の習得	150	(41.7%)
責任感、忍耐力の醸成	130	(36.1%)
基礎学力の底上げ	24	(6.7%)
学習意欲の向上	36	(10.0%)
その他	14	(3.9%)
無回答	6	(1.7%)
のべ合計	893	—

◆設問(6)

「キャリア教育」の運営課題についてどう考えますか。(複数回答)

	件数	
企業のボランティアに頼りすぎている、企業の負担が大きい	116	(32.2%)
現場の教師にとっても負担が大きく、対応余力がない	64	(17.8%)
企業、教育機関の双方がメリットを享受できる仕組みにすべき	135	(37.5%)
企業と学校の仲介役となるコーディネーターを充実すべき	112	(31.1%)
予算面で行政のバックアップを強化すべき	79	(21.9%)
”何を学ぶのか”目標が明確化されておらず、効果がみとめにくい	154	(42.8%)
その他	32	(8.9%)
無回答	13	(3.6%)
のべ合計	705	—

◆設問(7)－①

国、東京都など教育行政では今後、「キャリア教育」を一層推進していく予定です。これまでに体験学習受け入れ等の依頼を受けたことがありますか。

	件数	
ある	165	(45.8%)
ない	192	(53.3%)
無回答	3	(0.8%)
合計	360	(100.0%)

	件数	
大学生	83	(50.3%)
専門学校生	31	(18.8%)
高校生	42	(25.5%)
中学生	66	(40.0%)
小学生	27	(16.4%)
その他	9	(5.5%)
無回答	6	(3.6%)
のべ合計	264	—

◆設問(7)－②

体験学習受け入れ等協力依頼があった場合、貴社ではどのような対応が考えられますか。

	件数	
既に対応、取り組んでいる	119	(33.1%)
積極的に取り組みたい	18	(5.0%)
条件次第では取り組みを検討したい	63	(17.5%)
当面对応できないが将来的に考えていきたい	104	(28.9%)
将来的にも対応は考えていない	37	(10.3%)
その他	14	(3.9%)
無回答	5	(1.4%)
合計	360	(100.0%)

◆設問(8)

設問(7)－②で「1. 既に対応、取り組んでいる」とお答えいただいた方にお尋ねします。具体的な取り組み内容および対象をお教えてください。

取り組み内容	対象								のべ合計
	小学生	中学生	高校生	専門学校生	大学生				
職場体験、インターンシップ	11 (9.0%)	38 (31.1%)	29 (23.8%)	26 (21.3%)	69 (56.6%)				173
職業調べ、職場インタビュー	18 (14.8%)	24 (19.7%)	13 (10.7%)	4 (3.3%)	9 (7.4%)				68
社会人講師の派遣	3 (2.5%)	6 (4.9%)	7 (5.7%)	2 (1.6%)	11 (9.0%)				29
社員研修の受け入れ	6 (4.9%)	8 (6.6%)	10 (8.2%)	2 (1.6%)	1 (0.8%)				27
教育活動への経済的支援	0 (0.0%)	1 (0.8%)	2 (1.6%)	1 (0.8%)	1 (0.8%)				5
自社施設、設備の提供	6 (4.9%)	9 (7.4%)	9 (7.4%)	5 (4.1%)	4 (3.3%)				33
その他	5 (4.1%)	8 (6.6%)	6 (4.9%)	1 (0.8%)	5 (4.1%)				25
のべ合計	49 (40.2%)	94 (77.0%)	76 (62.3%)	41 (33.6%)	100 (82.0%)				360

◆設問(9)

設問(7)－②で「1. 既に対応、取り組んでいる」とお答えいただいた方にお尋ねします。貴社の協力による、児童・生徒への教育的効果についてどうお考えですか。

	件数	
大いに効果があった	39	(32.8%)
どちらともいえない	69	(58.0%)
あまり効果はなかった	3	(2.5%)
その他	6	(5.0%)
無回答	2	(1.7%)
合計	119	(100.0%)

◆設問(10)

設問(7)－②で「1. 既に対応、取り組んでいる」とお答えいただいた方にお尋ねします。「キャリア教育」の効果をあげるために今後取り組むべきこと、あるいは現状の取り組みや運営方法で改善すべきことをお聞かせください。

※以下、代表的な意見の集約

企業に関連して

- 企業は変に身構えず、ありのままの姿を子どもたちに見せる事が大事である。
- 企業は「キャリア教育」への協力が社会貢献であることをよく認識することが必要である。
- 体験学習を通じて、“働く”という事を考えるきっかけ作りと考え、取り組むべき。
- 受入の際、通勤・業務中などの事故責任の所在が定かではなく、企業にとってのリスクが多すぎ導入のネックとなっているので改善を促したい。
- 企業の受入体制(社内コンセンサス、人的手配、プログラム作りなど)をいかに整えていくかが課題。今のままでは企業の負担が大きすぎる。
- 企業にとってのメリットを明確にするとともに、メリットを生み出す仕組み作りを行なう必要がある。

学校に関連して

- 「キャリア教育」を施す以前に基礎教育の習得を徹底させてもらいたい。
- 現場の先生の「キャリア教育」に対する温度差が激しいことが円滑な運営を妨げる場合もあるので改善を促したい。
- 「キャリア教育」に関連してこれから生きて行く為の職業観・勤労感を学校でしっかり教育してほしい。
- カリキュラムなどにおいて企業にお任せでは困る。「キャリア教育」は企業と学校および地域、家庭を巻き込んでほしい。
- 学校は子どもたちに学ばせたいことの目的・目標をはっきりさせて企業と折衝すること。教える側の企業に意図を伝えること。
- 参加する子どもたち自身が、「何を学ぼうとしているのか、又何を学びたいのか」等の目的意識が明確になるよう、学校側での事前指導、教育が大切である。
- 職場体験が単なる企業見学で終わらせないための、学校⇄職場が連動した教育プログラムが必要である。
- 職場体験実施後に学校での全体発表を行うなど、子どもたちが体験した内容を昇華させる場をつくることが不可欠。また、その結果を企業にフィードバックしていくことが望ましい。

その他

- 職場体験等を実施した結果・問題点・課題のフィードバックにより、学校・企業・地域・関係機関が一体となって取り組む体制強化が必要である。
- 学校と企業の相互理解を図ることが先決。単なる見学や、PR活動ということだけにならない様に、啓蒙活動を積極的に行う必要がある。
- 企業、学校をコーディネートするしっかりした機関の必要性を感じる。

◆設問(11)

設問(7)－②で「2. 積極的に取り組みたい」「3. 条件次第では取り組みを検討したい」「4. 当面对応できないが将来的に考えていきたい」とお答えいただいた方にお尋ねします。今後、「キャリア教育」支援のために対応、または検討したいとお考えの内容はどれに該当しますか。(複数回答)

	件数	
職場体験、インターシップ	135	(68.5%)
職業調べ、職場インタビュー	82	(41.6%)
社会人講師の派遣	52	(26.4%)
教員研修の受け入れ	17	(8.6%)
教育活動への経済的支援	8	(4.1%)
自社施設、設備の提供	14	(7.1%)
その他	6	(3.0%)
無回答	1	(0.5%)
のべ合計	315	—

◆設問(12) 「キャリア教育」への協力ニーズが高まる中、協力企業側としてネックになることは何でしょうか。(複数回答)

	件数	
資金面(税制面)の公的支援が不足	72	(20.0%)
教育支援への関わり方など公的な発信情報が少ない	94	(26.1%)
企業側のメリットがない、または少ない	117	(32.5%)
教育カリキュラムの策定など学校からの情報が不足(何をすればいいのかわからない)	168	(46.7%)
専門のキャリア教育支援機関などによる学校、企業双方の調整・補完機能がない	81	(22.5%)
その他	42	(11.7%)
無回答	24	(6.7%)
のべ合計	598	—

◆設問(13) 今後の東京商工会議所および産業界における「キャリア教育」支援について、ご意見、ご要望等ご記入ください。

「キャリア教育」全般に関連して(賛成意見)

- 「キャリア教育」の推進は良い事ですのでどんどん推進してもらいたい。協力は惜しまない。
- 勤労意欲の乏しさ、フリーター、ニートの増加などの状況は深刻。今必要なことは小さい頃から働く必要性を養うこと。その為には、教育界、産業界、家庭、自治体の連携による「キャリア教育」は不可欠。
- 日本人の本来持っていた資質である技術的分野の優秀な能力を青少年期より磨き、将来社会に役立つ人材を育成すべき。
- 子どもたちの将来の為、企業として何ができるのか考えるべき。また、地域に根づいた活動として今後も推進して行ってほしいと考える。
- “会社見学”と職業系高校のキャリア教育は全く異なる。工業系高校であれば、業界毎に対応を行えばミスマッチは少なくなる。普通科高校であっても進学希望でない生徒には、選択なり希望に応じて対応してあげる仕組みを作るべき。(10)でも記したように受入企業の体制と“カリキュラム”の整合性が図れるのだろうか？中小製造業(ものづくり)への関心を高められる努力をしないと…。
- もとより、社会教育は社会の側の責任であるとの視点に立ち、それをスタート地点として取り組むべきと考えます。ことさらに「キャリア教育」と抜き取って、取り組むと、あらぬ方向へ流れる危険があると考えます。

「キャリア教育」全般に関連して(賛成意見)

- 体験反応を分析し、より向上を望みます。
 - 地域社会と学校は積極的な繋がりを持つ為にも、キャリア教育は大切と考えます。
 - 初・中等教育において、いかなる人材を育成するのか、そのためには企業としてキャリア教育で何をなすべきなのか(社会との一体感・連帯感を持ちつつ)を明確にして対応すべきと考えます。
 - 学校現場の中で、できることがまだまだあると思います。就学の認識とか、資本社会における義務と責任とか、グローバルな競争社会とか、前提が理解されてないと、むだになります。テクニカルなことでなく、処世哲学のようなことが大事です。
 - 「何をすればいいのか？」を、明確にしてほしい。
 - 社会構造の変化が早い為、キャリア教育の内容についても難しい点もあると思われるが、企業側からすると、社会人の基本マナーをしっかり身につけさせてもらいたい。・社会貢献への積極的参加と忍耐力の育成も必要。
 - キャリア教育そのものは、子供達の将来像構築に対して大変良い企画であると思います。現在の子供達の基本的育成概念を理解した上でキャリア教育を実施する事が重要であると思います。それは日本人は、協力・協調と「思いやり」を重視した教育が中心であり、外国のように自立型教育が中心ではありません。概念だけでは、うまく進まないと考えます。
 - インターンシップ制度や工場見学には、積極的に協力し、「環境問題」の現場に直に触れて頂きたいと思っております。
 - 次代を担う子供達の育成のために産業界としても積極的に協力していきたいと考えております。
 - 大変重要なことと思いますが、工場などと違い、時間も教える人数も少なく、負担感があることは確かである。ただし、日本の将来・子供たちの未来を考え、引続き実施はしていきたい。
 - 小学生(横浜市)の時に工場見学に行きました。今でも思い出します。簡単な事柄でも良いので、実行したらと思います。カリキュラム、位置付け等色々な課題はあるでしょうが、依頼があれば支援したいと思います。我社は、地元工業会に入ってますし、そうした団体活性化にもなるのでは。
 - 入社後のミスマッチ解消のためにも、「職場体験」等大いに興味がある。ただし、当社をはじめとする中小企業は、そのノウハウが乏しいと思われるため、参考事例やアドバイス等の情報発信に努めていただきたい。アンケートで回答したように、行きすぎたキャリア教育には懐疑的である。
 - どんな職業にでも敬意を払い、興味をもってほしいと思います。
 - 企業の社会的責任(CSR)に於いても、企業を取り巻くステークホルダーとの間との積極的な交流を通じて事業の実施に努めるべきである。「キャリア教育」はその一環であると思います。
 - 生徒の社会への視野を広げるという意味では「キャリア教育に賛同するが、「進路」と直接結び付けることにはやや疑問を感じる点もある。当社は企業規模としては小さいが、「より安全な社会を築く」ことをミッションとしており、社会貢献の一環として、できるだけ協力致したい。
 - 企業側としてはキャリア教育支援した結果、将来的に採用に直結する事がベストであると思います。教育界に対する産業界からの働きかけ(教師への教育等がなくては生徒が学んだ事が譲成されないと思う等)が必要と思われる。
 - 子供達に世の中にはどんな仕事があるのかを幅広く教えるとともに、経済活動の目的が利潤追求ではなく社会貢献である事を、体験を持って知って欲しい。
 - 少子高齢社会の到来や産業、経済の構造的変化、雇用形態の多様化などを背景として将来への不透明さが増してきています。学生の進路を巡る環境は大きく変化しておりフリーターやニートが大きな社会問題となっています。このような状況の中、子ども達に「生きる力」を身に付けさせることはとても重要なことと思います。社会人、職業人として自立していくことが出来るようにキャリア教育を出来るところからしていった方がよいと思います。
 - 就職しても、安易に辞めてしまう風潮の中、大学のオープンキャンパスのように、企業でも、キャリア教育がその役割を果たすのではないのでしょうか。
 - 世の中の全般的な傾向から判断すると企業が社会貢献の一環として「キャリア教育」を分担し、将来をになう若い人達の人間形成を含む、育成に力を入れるべきだと考えています。
- キャリア教育の重要性は、ますます高まっていくものと考えますが、一方職業観や就業意識は社会規範や高い道德観をベースとして育てていくものと認識しています。単なる企業見学に止まらず、そこで働く「人(人生)」に焦点を当てた教育方法も重要かと考えます。

「キャリア教育」全般に関連して(賛成意見続き)

- 「社会を知る」という事が、子供たちの人格形成に役立つ事だとは思いますが。ただ受け入れる社会が彼等にとって“興味のある、魅力のある”社会に成る事が先決である気がします。
- 学校側(生徒も含めて)が企業に求めていること、期待していること、逆に企業側が学校に求めていることを取りまとめた双方に開示してもらいたい。(見当ちがいなことをやってしまっても意味がないと思うので...)
- 初・中等教育は、様々なことに興味・関心を持ち、自分の個性や人間性をつくっていくための大切な時期であると考えられるため、学校教育とキャリア教育のバランスを勘案しながら、画一的ではなく、教育機関と企業がキャリア教育の的目や内容について、検討・共有しながら実践していくことが望ましいと考える。
- 短期的な成果をあまり求めず、時間をかけて積み上げていく事が大切。
- 2007年問題で若者のニーズが増している。キャリア教育により、若者の意識がより高まれば、企業にとっても利益になるので、頑張ってください。
- インターンシップが新卒採用に結びつくことを望んでいます。

「キャリア教育」に関連して(反対意見)

- 「キャリア教育」は初等、中等教育の中でなく、大学生になってからが良いのではないかと。(高等学校でも場合によっては可)
- キャリア教育以前の問題としての教育のあり方(基礎的学力、能力の素養、倫理観の醸成等)をもっと真剣に改善、議論すべき。選択肢のひとつとして、望む生徒にはキャリア教育のプログラムが用意されていても良いか?という考えです。
- キャリア教育には、賛成できません。目先だけの問題だけに目をやって対処することは、意味がないと思います。本当に身につけてほしいのは、次のようなことです。(1)人の役に立つことの喜びを教える。(2)楽しく自分で自分を追いつめることができるようにする。(3)自ら考え行動できるようになる。(4)基礎知識をつける。キャリア教育を考える前に教える教師の教育をする方が必要だと考えます。
- キャリア教育が何故必要なのか明確でない。教育とは、仕事をする為のものではなく、個人の人間形成の為にやるものであり、職業訓練学校とは違う。教育のあり方を根本的にとり違えている傾向があるのでは?
- 小学生時代に見学した企業の事は今でも鮮明に覚えています。社会勉強のような扱いで、充分ではないかと思えます。キャリア教育というと現場(教育)も負担が大きいのではないのでしょうか。
- キャリア教育の重要性はわかるが初等中等教育において職業観・就業意識・社会規範等を育むことを性急に求め過ぎているのではないのでしょうか。
- キャリア教育が企業の青田買いにならない様に配慮する事も必要と思う。(初等、中等教育に於いては問題ないが大学に於いて)
- 経済的企業間格差を是正し、雇用の安定化を図るため、当業界の相互理解を得ることが重要と考えます。そのためには、社会的地位を向上させ、現状の企業体質を改善し、「教育支援」の可能な状態に到達させることが先決ですが。
- 産・官・学がより連携して、より良い社会を築くための一つの方法だと思います。小学生に対するキャリア教育には反対です。まずは、読み、書き、そろばんです。
- 親の躾・社会道徳の教育・適当な競争原理・愛国心教育など家庭・学校での教育を充実させる方が先だと思う。企業でそうしたことが出来るか。企業で何をどうやらせるのか、企業に遊びに、見学するだけとなりそう。企業と一言でいっても色々なレベルの企業がある。

企業の取り組みに関連して

- 受入企業の負担は大きいので、財政・税制でのメリットを検討して欲しい。
- 企業の経費負担に対し金銭負担が欲しい。
- 受入れ企業は、受入企業として「ステッカー」のようなものを提示されても良いかと思います。
- 企業の負担が大きいので、企業に頼りすぎないキャリア教育を思案してほしい。
- 企業の場合、教育の場ではないので、見学程度ならOKだが、体験までやると問題が多くなる。一つのアイデアは親の職場に行かすか、キッズニアのようなものを作るかしないとダメだと思う。
- 産業界全体としては、協力・支援してゆく必要はあると考えます。・受入企業も業種によっては適切でない企業もあり、学生にとって為になる業種・企業にお願いすべきと思います。
- キャリア教育の必要性は理解します。中規模以下の企業の人的な係り合い方に難しさを感じます。
- あくまで社会貢献の一環として行われるべきで、それ以上の企業側のメリットはない方が良い。
- キャリア教育を充実させるためには、事前の準備と計画的・継続的な活動となる仕組が不可欠です。特記の学校との人脈で実現した次第であり、個人の努力だけでは続きません。
- 中小企業がキャリア教育支援を行うのは、よほど特長のある企業でないと難しい。
- 教育現場の現状や情報などを参考にして支援方法を業種別に検討して取組む様にしていく。
- 弊社は陸自幹部学校・東京都教育委員会の民間教育実習を受け入れていますが、率直に申しますと、期間中は1名が専従となり、又準備等の手間等を考慮すると相当なパワーがかかっています。公的なアドバイザーなどが支援していただけると助かります。
- 小学校・中学校・高校といった早い段階から、仕事・職場の雰囲気を理解することは、学生・企業双方にメリットがあるのではないかと。地道な努力の積み重ねによって、社会問題となっているフリーター・ニートの問題の解決にもつながるのではないかと、さらに学生と企業の認識をうめる意味でも「キャリア教育」には注目していきたい。
- 業界、業種、職種により、受け入れ易い企業、受け入れ難い企業があります。（専門的職種など）このあたりを考慮した上での「キャリア教育」支援となる様お願いしたいところです。
- 高等教育に対してのキャリア教育については対応できることもあると考えられるが、当社の業種では初等、中等教育に対してできることはほとんどないと思います。
- 中堅・中小企業にとっては、企業の負担が重い。
- 理念としては同調できるので、企業がより参加しやすい工夫をこらしてほしい。
- 地域によって必要とされるスキルが変わってくると思うため、幅を持たせた支援が必要と思います。
- インターンシップでは生産工場での体験をしてもらうことになるが、単に作業を体験するだけでは、“3K”の印象が強く残ったままになるかもしれない。教育現場においても、体験したことについて深い掘り下げが必要と思う。当面自社の仕事の確保に力を入れている為、キャリア教育に関して受け入れる余裕がないのが現状です。

カリキュラムに関連して

- 小学校・中学校・高校は、訓練中心。実業は早い。高専・大学...受け入れて、教育してもよい。体験学習も結構ですが、学習カリキュラム(学校での)の中に社会人が出前又は出張して社会人の仕事を伝えることがあってもよいのではないかと。
- キャリア教育については推進すべきであるとする。但し教育の効果、評価については追跡調査も含めフォローアップの仕組みを考えておくべきである。
- 期間が短かく、見学的な要素が多い。(現行)・目的別に教育カリキュラムの策定が必要である。・学校単位ではなく、家族単位で学生が自分達の家族の職場を訪問し、職場体験をおこなうことで、メリットは大きくなると思われる。
- 小学校→中学校→高校への体系的なシステム(カリキュラム)とすべきと思います。
- 先生の総合的レベルアップが必要。(家庭教育、ことに社会学、義理人情、社会福祉等を教える)

「キャリア教育」への支援に関連して

- 一企業で取り組むのは、色々な面で負担になることが多い。業界団体などグループ的な活動に教育プログラムを支援すべきと思います。今は年に1、2回ですが余り多く重なると対応がむずかしくなります。小学生では教える間に時間がなくなりますので。
- コーディネーターの充実が大切だと思います。目標を明確にすることは大切だが、あまり細かい(範囲の狭い)目標を設定する必要はないと思います。一つ一つ経験を積み重ねていくことが大切だと思います。基本的には進めていく事に賛成です。中小企業には負担が増えるので、公的支援(大手は必要なし)が必要だと思います。
- 産学連携の人材開発は、今後益々重要と思われる。中立的なコーディネーターの役割が鍵となると考えます。一方で、速やかな産業界全体への浸透を考慮すると明確な企業メリットが存在することが好ましいと考えます。
- 「キャリア教育」を実施することで、中小企業にも人材が集まるようなトレンドができると思う。学校と企業の間をコーディネートする商工会議所のポジションが重要だと思います。申し込みが学校から学生から個人からと別々なので、ある程度ルールがあると対応しやすい。

東京商工会議所への要望事項

- 日本の産業全体を思えば、キャリア教育推進してゆくべしと考えますが、ある部分仕方が無い事かも知れませんが、家庭、行政、教師、全て、責任がなさすぎると思います。いくら教育支援を民間団体に推進しても、限度があります。今、一番先に手を付けるべきは、◎親らしく、◎先生らしく、◎行政らしく(国民が安心感を持てる)。この政策推進が大切だと思いますがいかがですか？
- 東京商工会議所からの申入れがあれば、お役に立てる部分もあるかと思いますが、その前に目的と手段をより明確にする必要があるのではないのでしょうか。各企業がまちまちに行っていたのでは、かえってマイナス面も大きいと思います。
- 今、学校教育は大変であり、重要だと思えます。学校の先生だけでなく地域社会にある各種職場が一体となってやっていく必要があると思います。その為にも商工会議所さんが中心となって推進される事を願います。
- 学校はゆがんでいます。それも大人の責任だと思えます。
- 行政・学校・企業との調整役に(計画策定段階から)。
- 国際化が叫ばれている日本経済にとって、唯一の資源である人材の育成が急務である。職業経験を若い時にさせて、自分の将来を考える一助にできる様に商工会議所が音頭をとるのは意味あることと考える。
- 情報を分かりやすくネット等で紹介して欲しい。
- どの企業でどのような活動をしたのか教えていただけるような事があれば協力等もしやすいのではないかと思います。
- 今後学校と企業の仲介役となって頂ければ、有難く思います。
- 技術等表面的な職業観だけでなく、働くことの大切さ、社会との関わり方、人生の生きがい等、本質的な部分を教育してほしいと希望します。
- 小・中学生の社会との直接的関わりは、学校内教育では学べないものである為、積極的に推進すべきであると考えますが、受け入れ企業にのみリスクを負わせるのではなく、NGO・NPO的組織を仲介役として運営を進めることが長期的に継続出来る対応と思われる。
- 目標の明確化と方法についての提案をいただく事によって企業のメリットを模索し、取り組みが行い易いと考えます
- 実際に学校側でどのような事を具体的に企業に求めているのかが不明確であるので、その様な場の提供をまず期待したい。例えば商工会議所が仲介に入り、その様な会合の開催はできないものでしょうか。
- 商工会議所は地域とのかかわりが深いのだから、地場産業を中心とした企業の協力を得て、学校教育委員会等と具体的なキャリア教育のプログラム作成に取り組んでほしい。
- 一口に「キャリア教育」と言っても、その内容はさまざまである。1. 東商がすすめようとする「キャリア教育」の目的・方向性などを明白に示すこと。2. その目的・内容に応じた予算の支援を、国及び産業界に呼びかけ実現すること。
- 「キャリア教育」支援を推進する機関としての活動を期持します。
- 企業と教育界を結ぶ橋渡し役としての東京商工会議所の活動に注目してゆきたいと思えます。
- すべての企業に偏く、という制度・仕組みではなく、企業の業態や業種に合ったものを構築してほしい。
- 先頭に立って動いていただき、指導教育していただきたいです。
- 各団体、推進組織が一体となり、整合の取れた施策を展開されることを期待します。
- インターンシップを希望する学校、等の情報があれば対応しやすくなる。
- どの様な立場から関与するのかを明確にして頂きたい。
- 特に小売業の場合、恥ずかしがらずにきちんとお客様に相対する姿勢が必要です。そうした能力は、その後の人生においても大いに役立つはず。学校教育の中にも、そうしたカリキュラム(演劇教育、表現能力と育成など)を積極的に盛り込むよう、進言して下さい。
- 唱われる「キャリア教育」の主旨が原因の解明に依らない対症療法的施策に終始しないよう望みます。
- 今回、アンケート調査と言う事で対応致しましたが、キャリア教育支援に協力する為にも、現状を発信して下さい。